

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

25年5月の牛肉生産量はかなりの程度減少、肥育牛価格は高値で推移

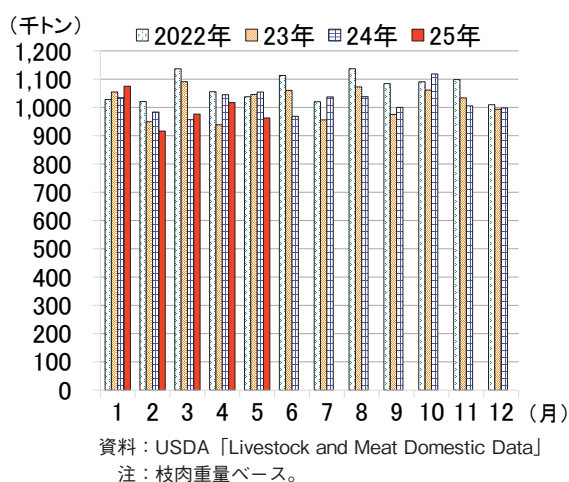
25年5月の牛肉生産量は前年同月比8.7%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年5月のフィードロット導入頭数は188万6000頭（前年同月比7.8%減）、出荷頭数は175万8000頭（同10.1%減）と、いずれもかなりの程度減少した。導入頭数の減少については、牛飼養頭数の減少に加え、一部地域で未經産牛が保留されていることや、メキシコからの肥育もと牛の輸入停止の影響などとみられる^{（注1）}。この結果、同年6月1日時点のフィードロット飼養頭数は1144万2000頭（同1.2%減）となった。

このような中、5月の牛と畜頭数は244万9000頭（同10.7%減）とかなりの程度減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は395.5キログラム（同2.3%増）とわずかに増加し、同月の牛肉生産量は96万3000トン（同8.7%減）とかなりの程度減少した（図1）。

（注1）詳細は海外情報「米国はメキシコからの生体牛の輸入を再度停止（米国）（令和7年5月21日発）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004112.html）をご参照ください。

図1 牛肉生産量の推移

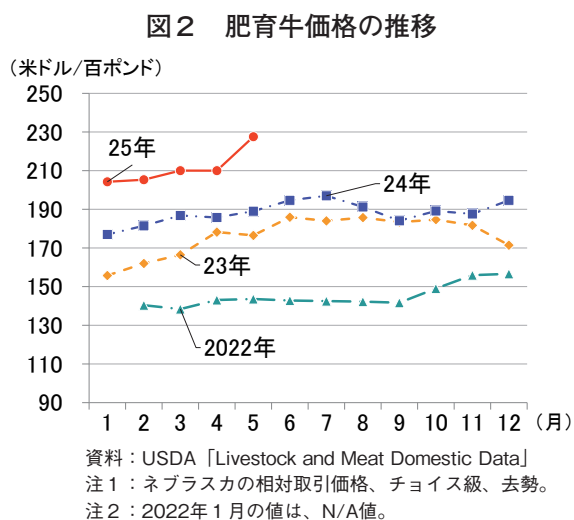


25年5月の肥育牛価格、前年同月比20.4%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年5月の肥育牛価格は、と畜頭数の減少などから100ポンド当たり227.57米ドル（1キログラム当たり732円：1米ドル＝145.81円^{（注2）}、前年同月比20.4%高）と前年同月を大幅に上回り、引き続き高い水準で推移している（図2）。同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注3）}）は、同352.84米ドル（同1134円、15.8%高）と前年同月をかなり大きく上回った。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

（注3）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。



4月の輸出量について輸出先別に見ると、韓国向けは2万8635トン（同15.3%増）とかなり大きく増加し、日本向けは2万7300トン（同8.1%増）とかなりの程度増加した。一方、中国向けは6397トン（同67.7%減）と大幅に減少した。中国向けについては、4月11日に追加関税が145%まで引き上げられた^{（注4）} ことに加え、中国海関総署（GACC）による米国内の中国向け牛肉輸出施設再認定の動きが見られない中で^{（注5）}、輸出量の減少につながった。

25年4月の牛肉輸出量は前年同月比8.6%減

USDA/ERSによると、2025年4月の牛肉輸出量は10万7599トン（前年同月比8.6%減）とかなりの程度減少し、同年1～4月の累計では、43万1162トン（同4.2%減）とやや減少した（表）。

（注4）4月11日に125%の追加関税が課され、それまでの追加関税と合わせて145%となった。詳細は海外情報「中国政府、農畜産物を含むすべての米国産輸入品に125%の追加関税（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004086.html）をご参照ください。なお、同関税は5月12日に30%への引き下げが発表された。

（注5）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。詳細は海外情報「米国農務省、停止状態の中国向け食肉輸出認可施設の登録更新を公表（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004076.html）をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 4月	25年 4月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
韓国	24,836	28,635	15.3%	24.3%	100,431	3.1%
日本	25,249	27,300	8.1%	23.2%	99,705	▲0.9%
メキシコ	13,469	12,189	▲9.5%	10.4%	47,561	▲9.9%
カナダ	9,742	8,375	▲14.0%	7.1%	34,957	▲0.5%
中国	19,781	6,397	▲67.7%	5.4%	59,718	▲17.1%
台湾	7,615	6,183	▲18.8%	5.3%	22,895	▲7.4%
香港	2,203	4,112	86.6%	3.5%	12,449	6.8%
その他	14,821	14,409	▲2.8%	13.4%	53,445	▲4.0%
合計	117,717	107,599	▲8.6%	100.0%	431,162	▲4.2%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
 注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 小林 大祐）

カナダ

24年の牛肉輸出量は前年比0.9%減、25年は前年並み

25年 1 月の総飼養頭数は前年比0.7%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2025年 1 月 1 日時点の牛の総飼養頭数は1094万頭（前年比0.7%減）とわずかに減少した（表 1）。前年と比較して干ばつは改善しているものの、肥育牛価格が高値で推移する中、牛の出荷を選択する生産者もいるため、飼養頭数は減少傾向にある。内訳を見ると、繁殖雌牛（肉用牛）が同1.2%減となった一方、未經産牛（肉用牛）が同0.8%

増となり、わずかではあるが未經産牛を保留する動きも見られる。しかし、子牛は同0.3%減となっていることなどから、短期的には増頭は見込めないと予測されている。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、24年の牛と畜頭数は342万頭（同3.2%減）となり、同年の牛肉生産量は131万トン（同1.2%減）とわずかに減少した。25年の牛肉生産量についてUSDA/FASは、飼養頭数の減少が見込まれる中で、前年比0.8%減の130万トンと予測している。

表 1 牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	11,245	11,015	10,940	▲0.7%
繁殖雌牛	4,497	4,383	4,341	▲1.0%
肉用牛	3,532	3,420	3,379	▲1.2%
乳用牛	965	963	962	▲0.1%
未經産牛	1,691	1,658	1,658	0.0%
肉用後継牛	541	517	521	0.8%
乳用後継牛	410	407	407	0.0%
その他	740	734	730	▲0.5%
去勢牛	1,232	1,237	1,215	▲1.8%
種雄牛	210	206	202	▲1.9%
子牛	3,616	3,533	3,524	▲0.3%

資料：Statistics Canada

注：各年 1 月 1 日時点。

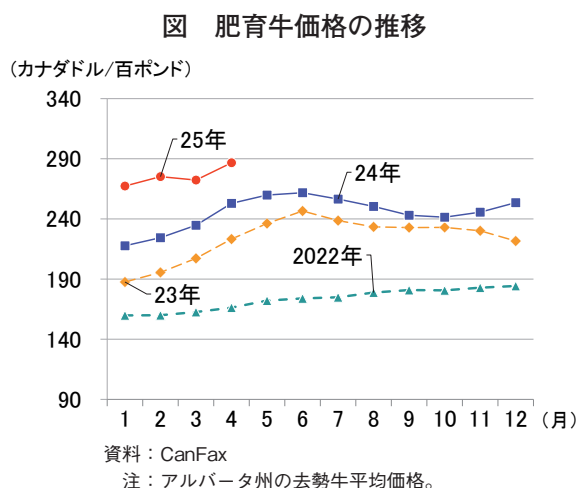
25年 4 月の肥育牛価格、前年同月比13.3%高

CanFax^(注1)によると、2025年 4 月の肥育牛価格は、100ポンド当たり286.67カナダドル（1 キログラム当たり678円：1 カナダドル = 107.29円^(注2)、前年同月比

13.3%高）とかなり大きく上昇した（図）。北米における堅調な牛肉需要と肥育牛供給の減少を背景に、25年の肥育牛価格は前年を上回る水準で推移している。

（注1）カナダ肉用牛生産者協会（CCA）の市況分析部門

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年 6 月末TTS相場。



24年の牛肉輸出量、前年比0.9%減

カナダ農業・農産食料省（AAFC）によると、2024年の牛肉輸出量は49万4694トン

（前年比0.9%減）、輸出額は49億3326万カナダドル（5292億8979万円、同1.8%減）と、いずれもわずかに減少した（表2）。輸出量上位3カ国向けの輸出量がいずれも減少しており、特に輸出先第3位のメキシコ向けは前年に比べてペソ安で推移した為替相場の影響などから、2万8861トン（同10.7%減）とかなりの程度減少した。なお、中国向けは、21年末のカナダ国内での非定型BSEの報告以降、輸出停止が続いている。

USDA/FASは25年の牛肉輸出量について、米ドルに対するカナダドル安に伴う輸出競争力の増加が生産量減少の影響を相殺することにより、前年並みで推移すると予測している。

表2 牛肉輸出量および輸出額の推移

国名	2023年		24年			前年比（増減率）	
	輸出量 （トン）	輸出額 （千カナダドル）	輸出量 （トン）	シェア	輸出額 （千カナダドル）	輸出量	輸出額
米国	375,173	4,036,614	374,346	75.7%	3,883,238	▲0.2%	▲3.8%
日本	45,374	351,834	43,084	8.7%	362,187	▲5.0%	2.9%
メキシコ	32,313	283,780	28,861	5.8%	259,943	▲10.7%	▲8.4%
韓国	14,220	121,822	15,019	3.0%	152,038	5.6%	24.8%
ベトナム	12,241	78,960	12,898	2.6%	120,859	5.4%	53.1%
香港	5,601	60,447	3,411	0.7%	41,520	▲39.1%	▲31.3%
コロンビア	417	464	3,220	0.7%	17,565	672.2%	3685.6%
フィリピン	1,796	6,944	1,860	0.4%	12,387	3.6%	78.4%
ペルー	1,460	2,718	1,440	0.3%	3,399	▲1.4%	25.1%
その他	10,393	78,839	10,555	2.1%	80,127	1.6%	1.6%
合計	498,988	5,022,423	494,694	100.0%	4,933,263	▲0.9%	▲1.8%

資料：AAFC「Beef Supply at a Glance」
注1：船積み重量ベース。
注2：子牛の肉も含む。
注3：合計と内容が一致しない場合がある。

（調査情報部 大西 未来）

豪州

牛肉輸出は好調を維持、米国関税の影響は見られず

25年6月若齢牛価格、下落傾向も春先には上昇の見込み

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2024/25年度（7月～翌6月）の最高値となる734豪セント（708円：1豪ドル＝96.50円^{（注1）}）を記録した5月末から下降気味で推移し、直近6月29日時点で1キログラム当たり712豪セント（687円）となった（図1）。

現地アナリストによると、牛価格の下落は初霜の到来による牧草肥育農家の導入意欲の低下を示しており、典型的な冬型のパターンに突入していると分析している。一方で、輸出向けをはじめとした牛肉需要は引き続き堅調であり、一部報道では、春先には、干ばつ後の全国的な牛群の再構築を背景に22～23年に記録された歴史的な高水準（1000

豪セント（965円）台）に再び達するという予測も立てられている。

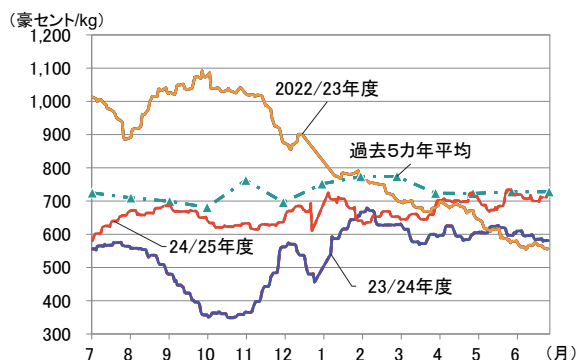
（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

と畜頭数は高水準で推移するも、大幅な牛群の縮小は見られず

2025年6月の週間成牛と畜頭数は引き続き高水準で推移しており、6月第3週は15万3442頭（前年同期比7.8%増）と、過去5年間で最高値を記録した（図2）。米国向けをはじめとした輸出需要がけん引する形となっているが、現地では15万頭超えは労働力不足などの問題と相まって、国内の食肉加工処理能力の限界に迫っているとも推測されており、今後も増加傾向が続くかどうかは不透明となっている。

MLAは25年6月に肉牛農家意向調査（BPIS）^{（注2）}の結果を公表した。と畜頭数が

図1 EYCI価格の推移

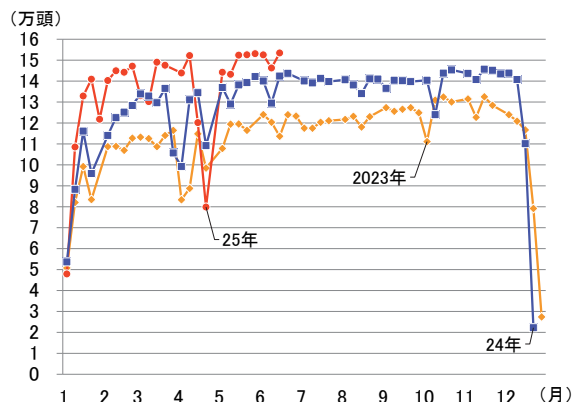


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

堅調に推移する中、牛群縮小の傾向について注目が集まっていたが、25年3月31日時点の牧草肥育牛頭数（子牛を除く）は2793万8755頭（前回調査比2.0%減）と、わずかな縮小にとどまった（表1）。また、今後1年間の生産意向は、約3割が頭数増、約5割が現状維持、約2割が頭数減を計画している

ことから、今後は牛群頭数の維持または増加が見込まれている。

（注2）MLAが2023年から実施している調査。牧草肥育農家を対象に、牛群の品種や月齢、生産者の牛群規模の増減に関する予定や出荷率、分娩率など、多岐にわたる項目を聞き取り、取りまとめている。

表1 地域別の牧草肥育牛頭数

（単位：頭）

地域	2023年 10月31日時点	24年 3月31日時点	24年 10月31日時点	25年 3月31日時点	前回比
南部	11,541,972	14,383,334	13,884,724	15,035,599	8.3%
北部	14,869,094	11,745,505	14,628,230	12,903,156	▲11.8%
合計	26,411,066	26,128,840	28,512,954	27,938,755	▲2.0%

資料：MLA「Beef Producer Intentions Survey」

注1：南部と北部の境界は、一般的に南緯26度線の以南と以北であるとされている。

注2：データはサンプル調査に基づく推計値（サンプル数=3116人）。

25年5月牛肉輸出量は過去最高を更新、関税措置の影響は見られず

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年5月の牛肉輸出量は12万9477トン（前年同月比13.7%増）とかなり大きく増加した（表2）。4月に引き続き、5月の数値としては過去最高を更新した。

5月の輸出量を輸出先別に見ると、特に米国、中国向けが顕著に増加した。米国向けは3万8299トン（同22.4%増）と大幅に増加し、現地報道では、米国の関税措置による影響が事実上ないことを示唆する結果となったと報じられている。また、中国向けも2万3877トン（同55.5%増）と国別で最大の伸びを記録した。MLAによると、特に穀物

肥育牛肉の輸出増が顕著であり、米中貿易摩擦の影響により豪州産牛肉の注目が高まっているとされている。なお、すでに中豪FTAに基づくセーフガード発動基準である19万989トンは半分以上消化されており、例年より早く最恵国待遇関税（12%）が課される見込みである点は懸念材料の一つとなっている。

一方、米国や中国向けとは対照的に、日本向けは1万9803トン（同22.1%減）と大幅に減少した。現地アナリストは、中国へのアクセスが減少している米国の輸出業者が日本市場への売り込みを強化したことで、競合する豪州産牛肉が影響を受けていると分析している。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	25年	前年同期比
				(1～5月)	(増減率)
米国	31,294	38,299	22.4%	167,590	32.3%
中国	15,359	23,877	55.5%	101,993	33.2%
日本	25,435	19,803	▲22.1%	95,886	▲11.5%
韓国	17,096	17,409	1.8%	82,183	12.0%
東南アジア	11,572	12,603	8.9%	53,523	0.7%
中東	3,209	3,627	13.0%	14,701	▲1.6%
E U	1,281	2,215	73.0%	7,459	37.2%
その他	8,677	11,512	32.7%	44,156	20.1%
輸出量合計	113,923	129,477	13.7%	567,623	14.6%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部 国際調査グループ)

アルゼンチン

25年1～4月の牛肉生産量は前年同期並み、輸出量は大幅減

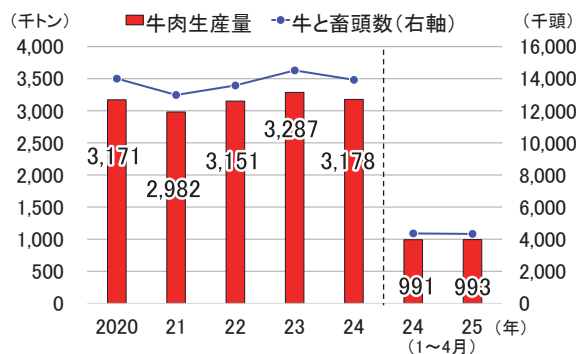
25年1～4月の牛肉生産量、と畜頭数は減少ながら前年同期並み

アルゼンチン経済省によると、2025年1～4月の牛と畜頭数は432万7000頭（前年同期比0.7%減）と前年同期をわずかに下回った。一方、牛肉生産量は1頭当たり枝肉重量の増加（同0.8%増）から、99万3000トン（同0.1%増）と前年同期並みとなった（図1）。と畜頭数の減少について、米国農務省（USDA）は、24年は厳しい干ばつに見舞われた中で、堅調な輸出需要も後押しして早期のと畜が進んだが、25年は干ばつが緩和し、肉用牛生産者による牛の保留傾向が強まっていることが要因としている。

国家農畜産品衛生品質管理機構（SENASA）によると、24年12月31日現在の牛飼養頭数は5162万5000頭（前年比2.2%

減）と前年をわずかに下回った。これは前述した干ばつの影響と考えられる。加えて、USDAによると、ラニーニャ現象による3年連続の干ばつが繁殖雌牛の分娩に悪影響を及ぼし、子牛の減少をもたらした。

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数

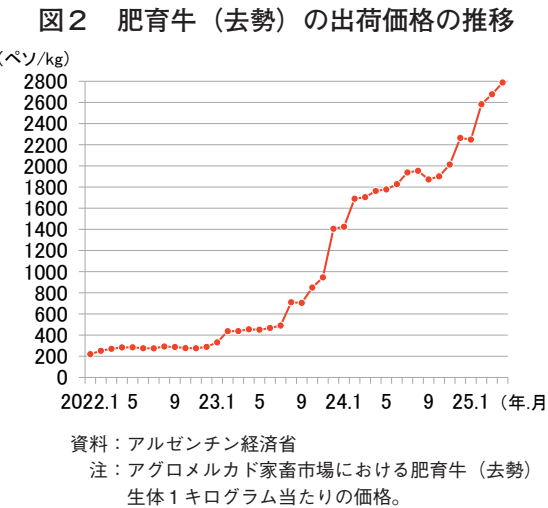


資料：アルゼンチン経済省

注：枝肉重量ベース。

25年4月の肥育牛（去勢）出荷価格、
前年同月比約1.6倍に上昇

同国の肉用牛相対取引の指標となるアグロ
ガナデロ家畜市場の2025年4月の肥育牛
（去勢）出荷価格は、1キログラム当たり
2788.13ペソ（335円：1ペソ＝0.12円^{（注1）}、
前年同月比58.1%高（約1.6倍）となった（図
2）。前述のと畜数の減少に加え、国内需要
が旺盛であることが肥育牛の出荷価格上昇に



拍車をかけたものと考えられる。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・
月中平均の為替相場」の2025年6月末のTTS相場および現地参
考為替相場（Selling）。

25年1～4月の牛肉輸出量は前年同
期比25.4%減

アルゼンチン国家統計院（INDEC）によ
ると、2025年1～4月の牛肉輸出量は19
万2027トン（前年同期比25.4%減）と前
年同期を大幅に下回った（表）。これは、米
ドルに対するペソ高が進み、他の輸出国と比
べると、輸入価格が上昇していることが一因
とみられている。また、USDAによると、
25年2月にアルゼンチンの大規模食肉加工
施設で火災が発生したことも輸出に影響した
とされており、今後数カ月はこの影響が続く
可能性があると考えられている。

一方、同期間の輸出単価は、1キログラム
当たり4.90米ドル（714円：1米ドル＝
145.81円^{（注2）}、同31.1%高）と大幅に上昇

表 牛肉輸出量および輸出額

国名	2024年1～4月			25年1～4月			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	202,655	572,645	2.83	129,429	422,760	3.27	▲36.1%	▲26.2%	15.6%
イスラエル	16,302	93,258	5.72	17,412	128,273	7.37	6.8%	37.5%	28.8%
米国	8,636	47,820	5.54	14,518	99,035	6.82	68.1%	107.1%	23.2%
ドイツ	7,260	74,162	10.22	7,322	87,069	11.89	0.8%	17.4%	16.4%
チリ	7,404	49,669	6.71	6,618	51,529	7.79	▲10.6%	3.7%	16.1%
オランダ	4,884	47,542	9.73	5,488	59,252	10.80	12.4%	24.6%	10.9%
メキシコ	1,927	9,623	4.99	2,666	14,870	5.58	38.3%	54.5%	11.7%
カナダ	113	441	3.89	2,254	10,695	4.75	1888.9%	2326.9%	22.0%
イタリア	1,610	15,288	9.49	2,204	22,269	10.11	36.8%	45.7%	6.4%
その他	6,569	52,239	7.95	4,116	45,666	11.09	▲37.3%	▲12.6%	39.5%
合計	257,362	962,686	3.74	192,027	941,418	4.90	▲25.4%	▲2.2%	31.1%

資料：INDEC
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

したため、輸出額（同2.2%減）はわずかな減少にとどまった。

輸出先別に見ると、輸出量全体の7割弱を占める中国向けは12万9429トン（同36.1%減）と大幅に減少したが、輸出単価は同3.27米ドル（477円、同15.6%高）と前年同期をかなり大きく上回った。USDAは、中国はアルゼンチンの主要輸出先であり続けるとしながらも、輸出業者がより輸出

単価の高い仕向け先に重点を移すにつれて、そのシェア（輸出割合）は徐々に低下する可能性があるとしている。また、政府と業界関係者は、東南アジアなど新たな市場開拓にも積極的に取り組んでいるとしている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

（調査情報部 原田 祥太）

豚 肉

米 国

25年4月の豚肉輸出量、輸出競争の激化から前年同月比11.1%減

25年6月の豚総飼養頭数、前年同月比0.3%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/

NASS）によると、2025年6月1日時点の豚総飼養頭数は、7513万7000頭（前年比0.3%増）と前年並みとなった（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は597万9000頭（同

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2023年	24年	25年	前年比 （増減率）
総飼養頭数（6月1日時点）	73,551	74,891	75,137	0.3%
繁殖豚	6,206	6,008	5,979	▲0.5%
肥育豚	67,345	68,884	69,158	0.4%
50ポンド（23キログラム）未満	21,284	21,279	21,536	1.2%
50～119ポンド （23～53キログラム）	18,982	19,398	19,421	0.1%
120～179ポンド （54～81キログラム）	14,344	15,190	15,260	0.5%
180ポンド（82キログラム）以上	12,735	13,017	12,941	▲0.6%
分娩母豚頭数（3～5月）	2,941	2,919	2,907	▲0.4%
産子数（3～5月）	33,414	33,743	34,172	1.3%
1腹当たり産子数（3～5月）（頭）	11.36	11.56	11.75	1.6%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

0.5%減）とわずかに減少し、肥育豚は6915万8000頭（同0.4%増）とわずかに増加した。3～5月期の産子数については、分娩母豚頭数が減少（前年同期比0.4%減）したものの1腹当たり産子数が増加（同1.6%増）したことから、同1.3%増となった。

25年5月の豚肉卸売価格、前年同月比0.9%安

USDA/NASSによると、2025年5月の豚と畜頭数は1039万7100頭（前年同月比1.7%減）とわずかに下回った。平均枝肉重量が増加（同0.5%増）したことで、同月の豚肉生産量は101万5900トン（同1.7%減）と3カ月続けて100万トン台で推移した（図1）。

このような中、同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は、100ポンド当たり99.38米ドル（1キログラム当たり320円：1米ドル＝145.81円^{（注2）}、同0.9%安）と前年同月をわずかに下回ったが、24年以降は比較的安定して推移している（図2）。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

図1 豚肉生産量の推移

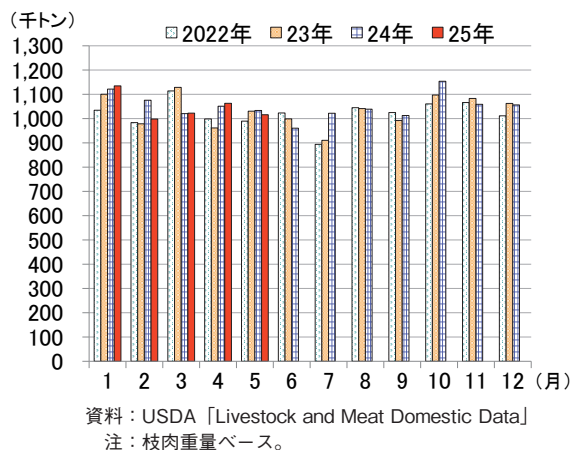
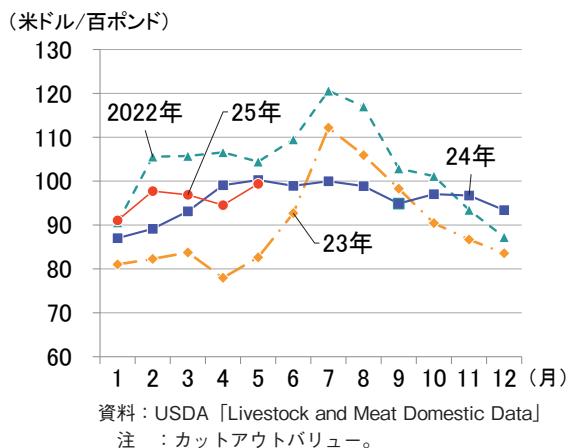


図2 豚肉卸売価格の推移



25年4月の豚肉輸出量、前年同月比11.1%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年4月の豚肉輸出量は26万4400トン（前年同月比11.1%減）とかなり大きく減少した（表2）。その中でも最大の輸出先となるメキシコ向けが9万3100トン（同16.9%減）と大幅に減少した。また、日本向けは、4万2600トン（同13.6%減）とかなり大きく減少した。直近数カ月の間、安価な冷凍豚肉を求めるアジア市場が過熱しているが、他の輸出国と競合する中で、現地価格が比較的高水準にある米国産が数量を減らす結果となっている。

USDAは、25年の輸出量について輸出競争が継続することから、315万2000トン（前年比2.3%減）とわずかな減少を見込んでい

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 4月	25年 4月	前年同月比 (増減率)	シェア	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	112.1	93.1	▲16.9%	35.2%	399.2	▲2.0%
日本	49.3	42.6	▲13.6%	16.1%	148.4	▲15.3%
韓国	37.2	34.1	▲8.4%	12.9%	117.1	▲12.8%
コロンビア	9.9	15.2	53.7%	5.8%	59.1	13.6%
中国	17.1	14.6	▲14.5%	5.5%	68.9	17.0%
豪州	10.6	10.8	2.2%	4.1%	44.6	0.2%
カナダ	16.5	10.5	▲36.3%	4.0%	67.4	▲13.4%
ドミニカ共和国	10.5	9.2	▲12.4%	3.5%	39.4	▲14.3%
その他	34.3	34.3	▲0.2%	13.0%	168.5	2.1%
合計	297.5	264.4	▲11.1%	100.0%	1,073.2	▲3.8%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

(調査情報部 大西 未来)

E U

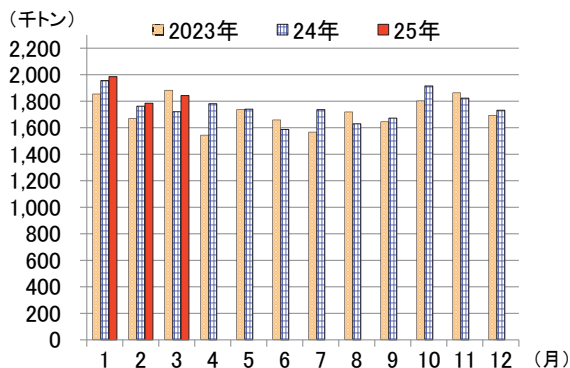
デンマークの豚枝肉卸売価格が上昇

25年第1四半期の豚肉生産量、前年同期比3.2%増

欧州委員会によると、2025年3月の豚肉生産量(EU27カ国)は、184万2670トン(前年同月比7.1%増)とかなりの程度増加した(図1)。これは、豚と畜頭数が1894万2190頭(同5.5%増)とやや増加したことに加えて、1頭当たりの枝肉重量が97.28キログラム(同1.5%増)とわずかに増加したことが影響した。と畜頭数が前年を上回った要因として、前年3月はイースター休暇により、と畜場の操業日数が例年に比べて少なかったことが挙げられる。

25年第1四半期(1～3月)の豚肉生産量は、561万2370トン(前年同期比3.2%増)とやや増加した。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会 [Eurostat]

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

同期間の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、スペインとデンマークは堅調な輸出需要などを背景に同5.9%、5.8%増とそれぞれやや増加した(表1)。一方、オランダでは豚肉生産量の減少が続いているものの、同期間のスペイン向けの子豚輸出頭数は同27.6%増となっており、子豚の生体輸出が盛んになっている。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

国名	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	382	444	16.3%	1,399	5.9%
ドイツ	348	376	8.3%	1,116	4.0%
フランス	170	174	2.5%	533	▲0.4%
ポーランド	166	166	0.0%	499	2.9%
オランダ	128	118	▲8.2%	351	▲10.0%
デンマーク	103	120	15.9%	367	5.8%
イタリア	107	115	6.9%	343	8.0%
その他	316	330	4.2%	1,005	3.5%
合計	1,721	1,843	7.1%	5,612	3.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

25年5月の豚枝肉卸売価格、前年同月比5.2%安も上昇傾向

欧州委員会によると、2025年5月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比5.2%安の1キログラム当たり2.08ユーロ（356円：1ユーロ＝171.16円^(注)）となった（図2）。同価格は3カ月続けて上昇しており、中でもデンマークでは、同国最大手食肉企業のデニッシュクラウンが、出荷豚の

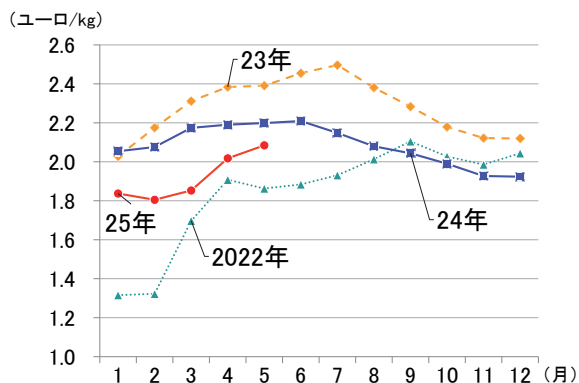
取引価格を大幅に引き上げたことが影響し、同月の豚枝肉卸売価格は同10.6%高の同2.05ユーロ（351円）となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

25年4月の豚肉輸出量、口蹄疫による輸出規制により前年同月比2.1%減

欧州委員会によると、2025年4月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、16万1509トン（前年同月比2.1%減）とわずかに減少した（表2）。英国および韓国向けはドイツでの口蹄疫の発生により、大幅に減少したことが影響した。また、日本向けはEU産豚肉の相場高が影響し、2万3953トン（同15.9%）とかなり大きく減少した。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」

注：EU（CLASS E）平均価格。

表2 輸出先別豚肉輸出力（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2024年 4月	25年 4月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
中国	38,711	38,857	0.4%	163,847	6.4%
英国	28,441	25,006	▲12.1%	102,376	▲5.4%
日本	23,953	20,149	▲15.9%	90,085	▲15.9%
韓国	20,780	19,162	▲7.8%	80,861	▲2.2%
フィリピン	8,788	10,005	13.8%	38,406	▲6.8%
豪州	4,553	6,661	46.3%	25,529	22.2%
その他	39,723	41,669	4.9%	192,113	15.8%
合計	164,949	161,509	▲2.1%	693,217	1.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

中国

豚肉小売価格は前年同月を上回るも下落傾向、豚肉輸入量は増加

25年4月末の繁殖雌豚頭数、前月比で横ばい

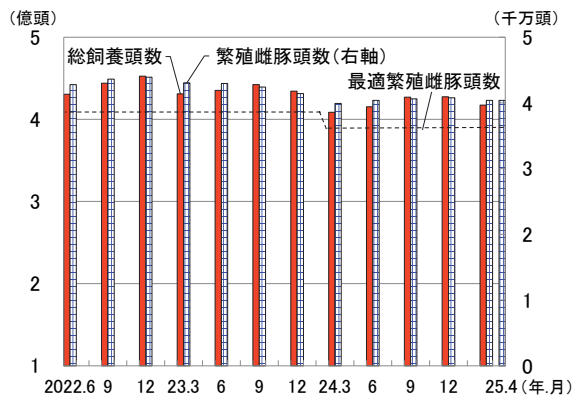
中国農業農村部によると、2025年4月末時点の繁殖雌豚頭数は4038万頭（前年同月比1.3%増、前月比0.02%減）と前月比で横ばいとなった（図1）。同頭数は、同部が最適

な飼養水準（以下「最適水準」という）とする3900万頭を3.5%上回っている。

25年4月の豚と畜頭数、前年同月比20.1%増

2025年4月の豚と畜頭数は、3077万頭（前年同月比20.1%増）と大幅に増加した（図2）。この要因について中国農業農村部は25年

図1 豚飼養頭数の推移

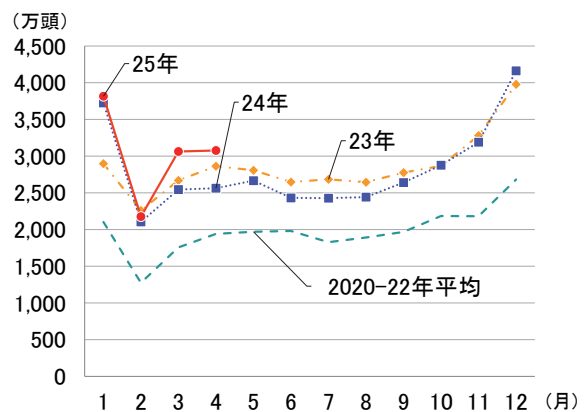


資料：中国国家统计局

注1：四半期ごとの公表値。25年4月の繁殖雌豚頭数のみ中国農業農村部の公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

6月に公表した「農産物需給動向分析月報」（以下「月報」という）で、（１）引き続き最適水準を上回る繁殖雌豚から子豚が生産され、堅調に出荷されたこと（２）飼料価格が高騰する中で飼養コスト削減のため、肥育豚を早期出荷したこと一を挙げている。

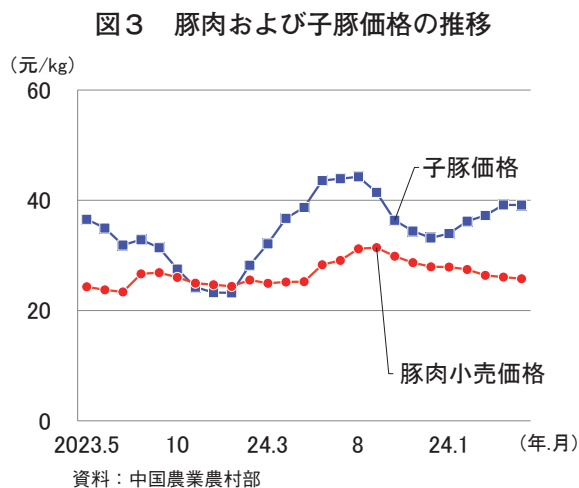
25年5月の豚肉小売価格、前年同月比2.1%高

2025年5月の豚肉小売価格は、前月比1.1%安の1キログラム当たり25.8円(529円：1円＝20.49円^(注)、前年同月比2.1%高)と、8カ月連続で下落したものの、減少率は縮小した（図3）。現地関係者によると、旧正月

（春節、25年は1月29日）後の豚肉不需要期を経て、清明節（同年は4月4～6日）や端午節（同年は5月31日）の祝祭日需要が、豚肉価格を下支えした。

豚肉生産にも影響する同月の子豚価格は、前月比0.1%安の同39.1元（802円、前年同月比1.1%高）と、25年に入って初めて下落に転じた。この要因について現地関係者は、（１）繁殖雌豚頭数が最適水準を上回り、子豚供給頭数が過剰であること（２）豚肉価格の下落により、肥育もと豚の導入意欲がやや低下したこと一を挙げている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。



25年1～5月の豚肉輸入量、前年同期比5.3%増

2025年1～5月の豚肉輸入量は44万2839トン（前年同期比5.3%増）と、ブラジルを除くすべての主要輸入先で前年同期を上回った（表）。中国農業農村部が25年6月に公表した月報によると、今後は、国内豚肉価格の下落により輸入豚肉の価格優位性が低下することで、輸入量は減少する可能性があるとしている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

国名	2023年	24年	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	37.8	29.0	12.2	7.9%
ブラジル	40.2	23.7	8.2	▲27.0%
カナダ	13.2	7.6	3.4	13.3%
米国	12.3	7.0	3.2	13.3%
オランダ	12.0	7.5	3.4	15.5%
チリ	8.4	6.5	3.2	18.1%
その他	30.1	23.7	10.7	32.7%
合計	154.1	105.1	44.3	5.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部 山崎 葵）

鶏 肉

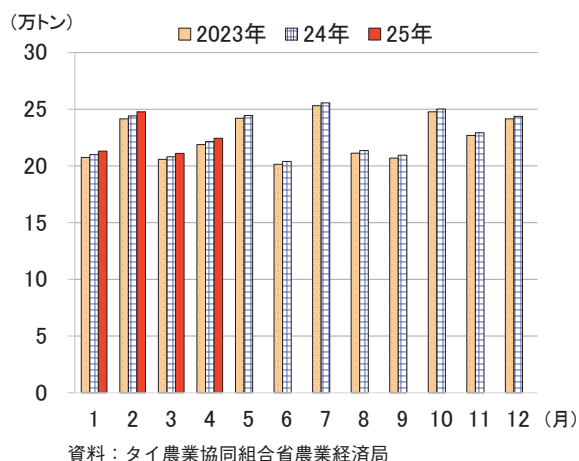
タ イ

25年の鶏肉生産、鶏肉製品輸出は引き続き堅調

25年 1～4 月の鶏肉生産量、前年同期比1.4%増加

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2025年 1～4 月の鶏肉生産量は89万6332トン（前年同期比1.4%増）とわずかに増加した（図1）。タイ金融大手のカシコン銀行傘下のシンクタンクであるカシコン・リサーチセンターが6月に公表した報告書では、タイ国内の豚肉価格の高騰などによる鶏肉の国内需要増などに対応するため、25年の鶏肉生産量は前年比1.3%増と予測している。

図1 鶏肉生産量の推移



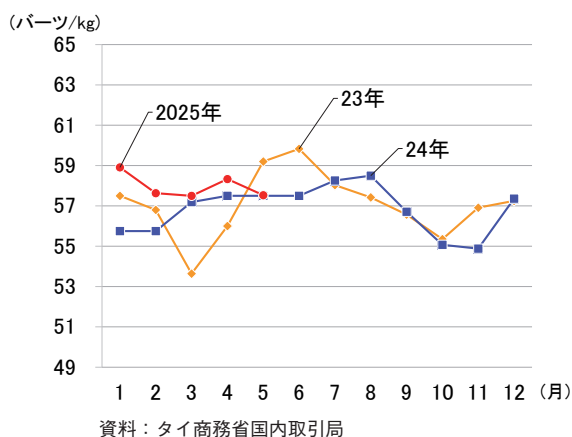
25年 5 月の鶏肉卸売価格は前年並み

2025年 5 月の鶏肉卸売価格は、前年同月比0.1%高の 1 キログラム当たり57.53バーツ（260円：1バーツ＝4.52円^{（注）}）と前年並みとなった（図2）。今後の鶏肉価格の動向

について現地関係者は、これまでは鶏肉の輸出需要に下支えられていたが、5月中旬から雨期に入り、国内消費の中でも特に外食需要の減少が顕著であることから、下落の恐れがあるとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年 6 月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



25年 1～4 月の冷凍鶏肉の輸出量、前年同期比6.0%増

2025年 1～4 月の冷凍鶏肉の輸出量は、16万1150トン（前年同期比6.0%増）とかなりの程度増加した（表1）。主要輸出先別に見ると、韓国向けのみ大幅に減少している。その要因について現地関係者は、（1）韓国国内の鶏肉生産量が増加傾向にあること（2）韓国でタイ産よりも安価なブラジル産の鶏肉輸入量が増えていること一を挙げている。輸出先首位の日本向けは、外食産業を中心に

鶏肉需要が堅調に推移したことから、6万3166トン（同8.1%増）とかなりの程度増加した。

表 1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	16.6	17.9	6.3	8.1%
中国	11.5	11.3	4.0	8.8%
マレーシア	9.1	9.1	3.2	3.7%
韓国	3.2	2.2	0.7	▲30.9%
アラブ首長国連邦	0.02	0.98	0.6	417.8%
その他	6.8	4.6	1.2	▲14.5%
合計	47.2	46.1	16.1	6.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

25年 1 ～ 4 月の鶏肉調製品の輸出量、前年同期比6.1%増

2025年 1 ～ 4 月の鶏肉調製品輸出量は、22万5715トン（前年同期比6.1%増）と

かなりの程度増加した（表2）。日本向けは、日本国内の節約志向を背景とした鶏肉需要により堅調に推移し、9万7522トン（同2.3%増）とわずかに増加した。

表 2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	28.6	30.1	9.8	2.3%
英国	16.1	19.9	6.8	9.2%
オランダ	4.1	4.5	1.7	11.1%
韓国	2.9	2.9	0.8	▲13.8%
その他	8.0	10.3	3.6	14.9%
合計	59.6	67.7	22.6	6.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

(調査情報部 平山 宗幸)

牛乳・乳製品

E U

25年4月の生乳出荷量、5カ月ぶりに前年同月上回る

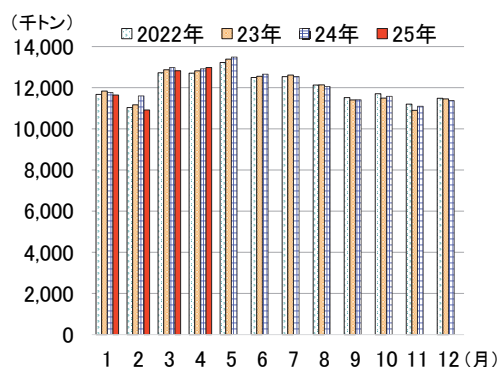
25年4月の生乳出荷量は前年同月比0.5%増

欧州委員会によると、2025年4月の生乳出荷量（EU27カ国）は1298万トン（前年同月比0.5%増）と、わずかながらも5カ月ぶりに増加した（表、図1）。国別に見ると、フランス（同1.8%増）は5カ月ぶりに、アイルランド（同12.6%増）は良好な放牧環境に恵まれ、それぞれ前年同月を上回り、ポーランド（同0.3%増）は前年同月並みながらも緩やかな増産が長期的に継続している。一方、ドイツ（同1.1%減）とイタリア（同1.9%減）は前年同月をわずかに下回ったものの、減少幅は前月に比べて縮小した。

現地関係者によると、増産の割合が最も

大きいアイルランドでは、環境規制による飼養密度の抑制などから乳用後継牛が減少しているとされる。また、25年春先の肥育もと牛の需要の高まりにより、子牛の肉用牛としての販売の増加も懸念されている。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 4月	25年 4月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,780	2,749	▲1.1%	10,650	▲2.9%
フランス	2,108	2,145	1.8%	8,108	▲2.3%
オランダ	1,177	1,176	▲0.1%	4,583	▲2.3%
ポーランド	1,166	1,169	0.3%	4,548	▲0.4%
イタリア	1,164	1,141	▲1.9%	4,402	▲4.0%
アイルランド	980	1,104	12.6%	2,455	7.9%
その他	3,544	3,495	▲1.4%	13,615	▲1.9%
合計	12,918	12,979	0.5%	48,361	▲1.8%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

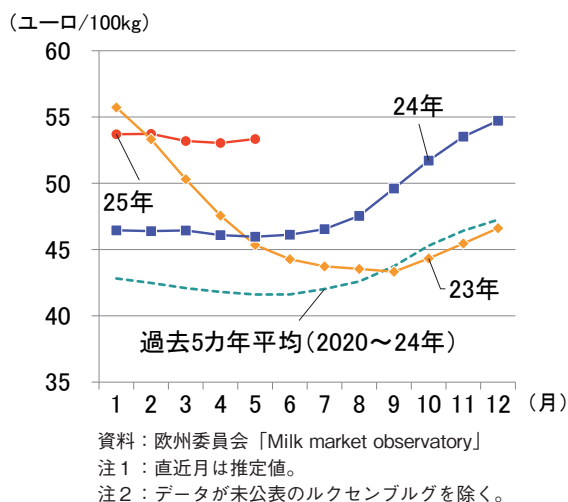
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年5月の生乳取引価格は前年同月比16.0%高

欧州委員会によると、2025年5月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.34ユーロ（1キログラム当たり91.30円：1ユーロ＝171.16円^{（注）}、前年同月比16.0%高）と13カ月連続で前年同月を上回った（図2）。同価格は、高水準で推移するバターなどの乳製品価格にけん引される形で好調を維持している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移

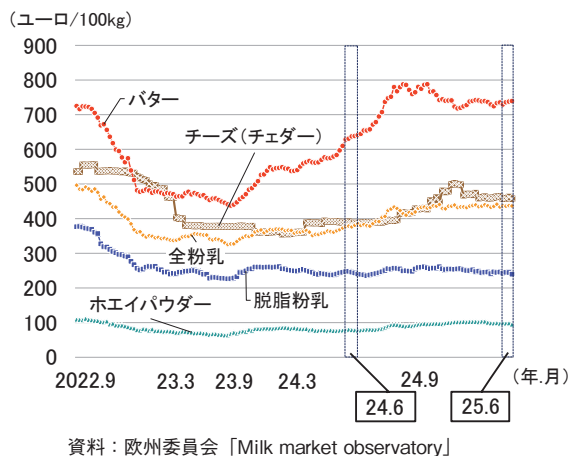


25年6月第4週のバター価格は前年同期比15.8%高

欧州委員会によると、2025年6月22日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり739ユーロ（1キログラム当たり1265円、前年同期比15.8%高）、チーズが同458ユーロ（同784円、同18.2%高）、全粉乳が同437ユーロ（同748円、同14.6%高）と前年同期を大きく上回り、高値を継続している。また、脱脂粉乳は同249ユーロ（同426円、同1.5%安）と前年同期をわずかに下回った（図3）。

6月以降の季節的な生乳出荷量の減少と域内外からの堅調なチーズ需要により、バターに仕向けられる生乳が減少し、バター価格は高水準を維持している。

図3 乳製品価格の推移



（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

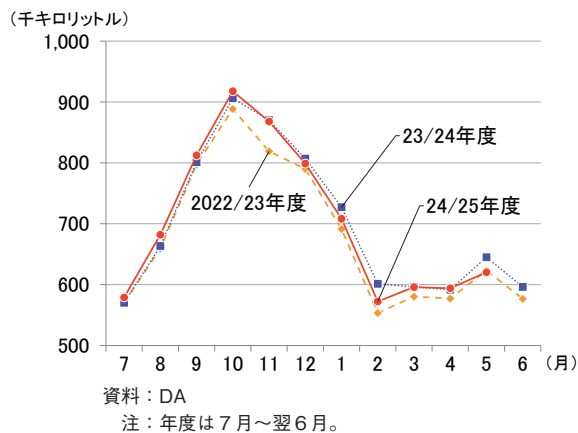
生乳生産量の減少などを受け次年度乳価は引き上げ

25年5月の生乳生産量、前年同月比3.8%減

デイリー・オーストラリア（DA）が2025年6月に公表した「Milk Production Reports」によると、25年5月の生乳生産量は前年同月比3.8%減の62万332キロリットル（63万8942トン相当）となった（図1）。

この結果、2024/25年度（7月～翌6月）5月までの累計生乳生産量は、前年同期比0.4%減の774万8791キロリットル（798万1255トン相当）となった。

図1 月別生乳生産量の推移



25/26年度の生産者支払乳価は引き上げ

2025/26年度当初の生産者支払乳価は、国内生乳生産量の減少などを踏まえた乳業各社による原料乳確保の動きから、2025年6月初旬までに生乳の固形分^{（注1）}1キログラム当たり8.9豪ドル（859円：1豪ドル＝96.50円^{（注2）}、前年度比9%高）程度と高値が提示された（表1）^{（注3）}。

しかし、豪州の酪農主産地であるビクトリア州などで発生した干ばつにより、飼料や水などのコスト上昇に直面する酪農家からの切実な要請を受け、同6月末までに乳業各社は同乳価額を改定し、おおむね同9.1豪ドル（878円、同11%高）程度に引き上げている。

（注1）乳脂肪分および乳たんぱく質。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。
（注3）海外情報「25/26年度の当初乳価は上昇も、水準に不十分の声（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004129.html）をご参照ください。

表1 豪州主要乳業各社の生産者支払乳価

乳業会社名	生乳の固形分1キログラム当たり乳価				
	新年度 (2025/26)			前年度 (2024/25)	前年度比 (改定後との比較)
	改定後 (6月30日時点)	改定前 (6月3日時点)	改定後の 引き上げ率		
ベガ社（国内商系）	8.95	8.95	（据置）	8.05	11.2%
豪州フォンテラ社（NZ資本）	8.90	8.60	3.5%	8.00	11.3%
豪州サブート社（カナダ資本）	9.05	8.875	2.0%	8.075	12.1%
豪州ラクタリス社（フランス資本）	9.30	9.10	2.2%	8.40	10.7%
ADFC（国内協同組合系）	9.30	9.00	3.3%	8.20	13.4%
パラフーズ社（中国資本）	9.05	8.85	2.3%	8.25	9.7%

資料：乳業各社のプレスリリースや報道情報を基に機構作成
注1：年度は7月～翌6月。
注2：乳価は乳質や出荷量、地域や時期によって単価が設定されているが、ここでは全体像を示すため平均的な単価水準を示している。

25年4月の主要乳製品輸出量、脱脂粉乳を除き増加

DAが2025年6月に公表した「Dairy Export Summary」によると、25年4月の主要乳製品4品目の輸出量は、脱脂粉乳を除きいずれも増加した（表2、図2）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高いベトナムやマレーシア向けが大幅に増加したものの、最も輸出量の多い中国向けが大幅に減少したことを受け、前年同月比で1.3%減とわずかに減少した。一方、全粉乳は、

タイやベトナム向けが減少したものの、輸出量全体に占める割合が高い中国とアラブ首長国連邦向けが大きく増加したことを受け、前年同月比で22.8%増と大幅に増加した。バターおよびバターオイルは、マレーシアやタイなど東南アジア向けが増加したほか、メキシコや台湾などからの引き合いが強かったことを受け、同9.7%増とかなりの程度増加した。また、チーズは、主要輸出先である日本と中国向けが堅調に推移したことを受け、同3.2%増とやや増加した。

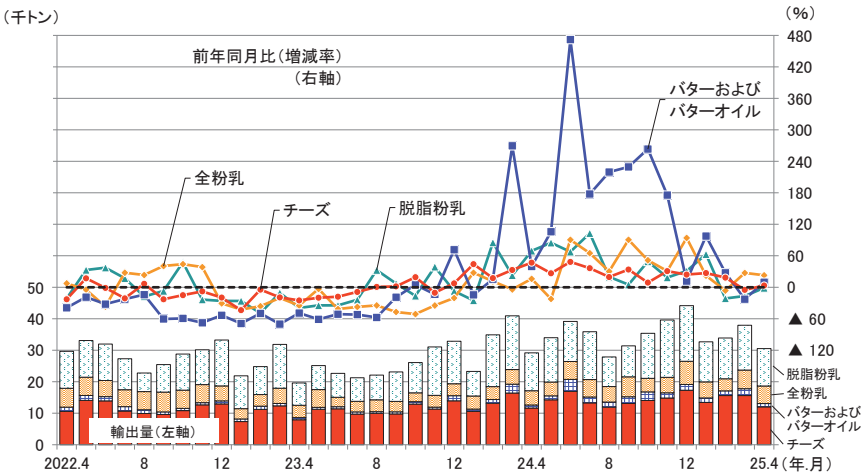
表2 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2024年 4月	25年 4月	前年同月比 (増減率)	24/25年度 (7月～翌4月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	12,026	11,868	▲1.3%	136,410	17.1%
全粉乳	4,534	5,569	22.8%	53,791	40.5%
バターおよびバターオイル	968	1,061	9.7%	17,952	71.6%
チーズ	11,641	12,019	3.2%	141,141	18.1%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

バターおよびチーズの輸出量は増加、GDT平均価格も上昇

25年5月の生乳生産量、前年同月比8.3%増

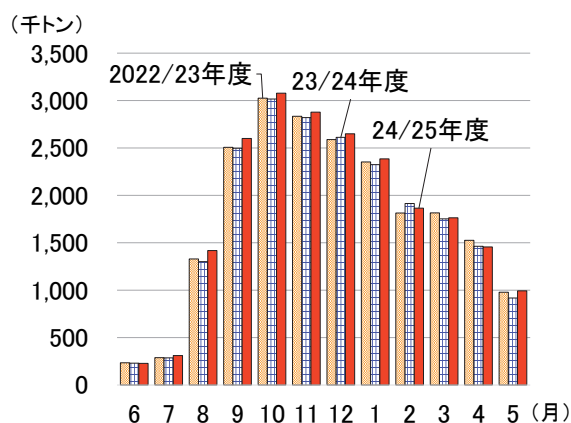
ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年5月の生乳生産量は99万3000トン（前年同月比8.3%増）とかなりの程度増加し、5月としては過去最大級の水準となった（図1）。この結果、24/25年度（6月～翌5月）の累計でも2162万3000トン（前年度比2.3%増）とわずかに増加した。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、北島のワイカト地域など主要

酪農地帯では、干ばつの影響で多くの生産者が例年より約4週間早く乾乳期に入った一方、南島は5月の降雨と気温上昇による良好な牧草生育が生乳生産に寄与したことで、全体としては増加につながったとしている。

また、今後の生乳生産量の見通しとしてNZXは、NZ乳業大手フォンテラ社が提示した25/26年度の生産者支払乳価^{（注1）}が高い水準であったため、酪農家の生産意欲が高まっていることなどから、6月以降に生乳生産量の増加として反映される可能性があるとしている。

（注1）海外情報「フォンテラ社、24/25年度乳価の据え置きと、25/26年度当初乳価を発表（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004130.html）をご参照ください。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

25年5月のバターおよびバターオイルの輸出量、大幅に増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年5月の乳製品輸出量は、主要4品目のうちバターおよびバターオイルとチーズでいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、バターおよびバター

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	35,435	30,801	▲13.1%
全粉乳	128,367	104,497	▲18.6%
バターおよびバターオイル	36,432	46,414	27.4%
チーズ	35,935	40,979	14.0%

資料：Stats NZ

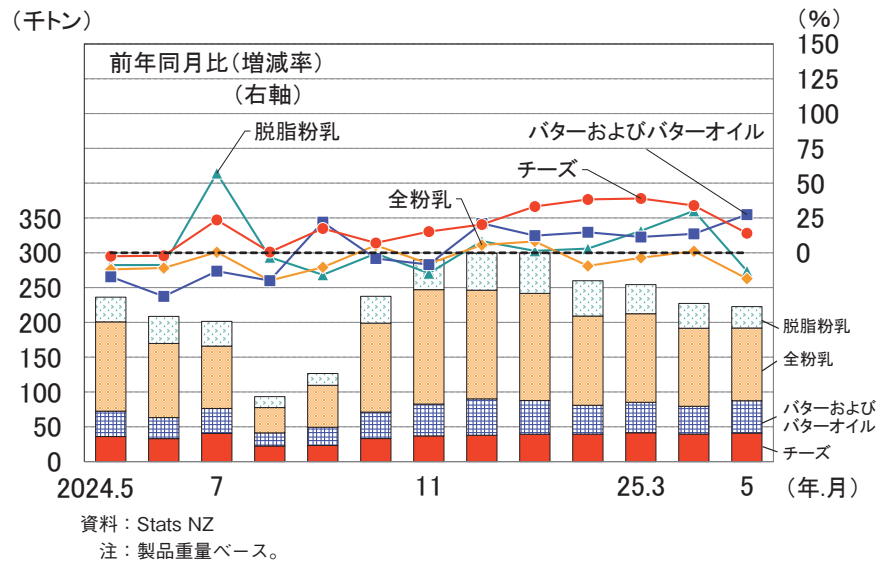
注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

オイルはオランダ、サウジアラビア向けが、
チーズは中国およびサウジアラビア向けが

いずれも伸びたことで輸出量が増加した。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



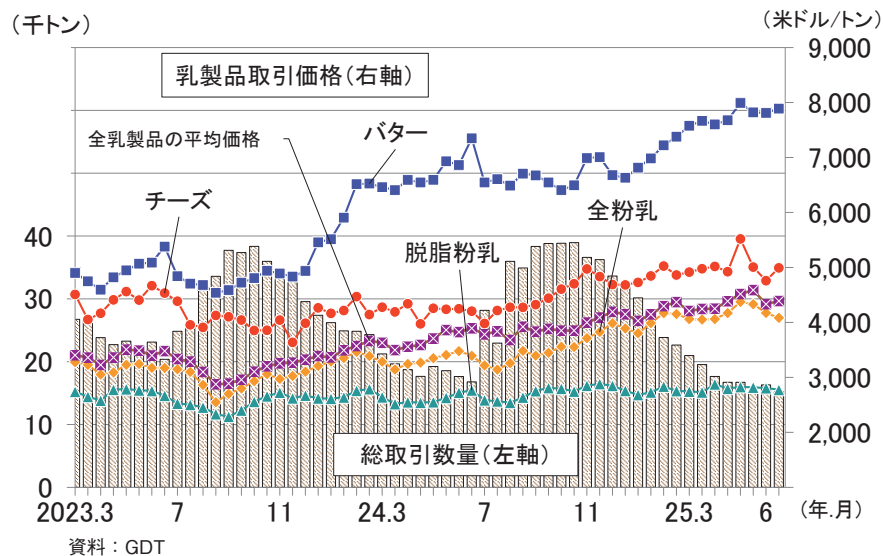
25年6月17日のGDT平均価格、バターおよびチーズが上昇

2025年6月17日開催のGDT^(注2) 平均取引価格は、バターおよびチーズが前回開催時(25年6月3日)を上回った(図3)。中東情勢の激化とそれに伴う中東におけるバター

など乳脂肪需要の増加から、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4389米ドル(63万9960円、1米ドル＝145.81円^(注3)、前回比1.3%高)となった。

(注2) グローバルデ일리ートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 田中 美宇)

飼料穀物

世界

25/26年度は消費量および輸出量の増加から期末在庫はやや減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年6月12日、2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億6598万トン（前年度比3.5%増）と前月から100万トン上方修正され、過去最高の更新が見込まれている。主要生産国はいずれも据え置かれたが、インドの上方修正などが反映された。

輸入量は、世界全体で1億8748万トン（同2.4%増）と前月から据え置かれた。

消費量は、世界全体で12億7579万トン

（同1.7%増）と前月から136万トン上方修正され、過去最高の更新が見込まれている。また、3年連続で過去最高を更新する生産量を上回るとされる。主要国における消費量は、いずれも据え置かれたが、カナダでの上方修正などが反映された。

輸出量は、世界全体で1億9582万トン（同3.1%増）と前月から1万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は、消費量および輸出量の伸びが生産量および輸入量を上回ったことで、2億7524万トン（同3.4%減）と前月から260万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2025年6月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24 年度	24/25 年度 (推計値)	25/26年度			
			(5 月予測)	(6 月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	35.95	34.68	▲22.6%
	生産量	389.67	377.63	401.85	401.85	6.4%
	輸入量	0.72	0.64	0.64	0.64	0.0%
	消費量	321.92	321.07	324.75	324.75	1.1%
	輸出量	58.23	67.31	67.95	67.95	1.0%
	期末在庫	44.79	34.68	45.73	44.46	28.2%
ブラジル	期首在庫	10.04	8.49	5.98	5.99	▲29.4%
	生産量	119.00	130.00	131.00	131.00	0.8%
	輸入量	1.72	1.50	1.60	1.60	6.7%
	消費量	84.00	91.00	93.00	93.00	2.2%
	輸出量	38.27	43.00	43.00	43.00	0.0%
	期末在庫	8.49	5.99	2.58	2.59	▲56.8%
アルゼンチン	期首在庫	2.32	2.48	2.38	2.78	12.1%
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	15.20	15.60	15.60	2.6%
	輸出量	36.26	34.50	37.00	37.00	7.2%
	期末在庫	2.48	2.78	2.79	3.19	14.7%
ウクライナ	期首在庫	3.00	0.64	0.31	0.31	▲51.6%
	生産量	32.50	26.80	30.50	30.50	13.8%
	輸入量	0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	5.38	5.15	6.23	6.23	21.0%
	輸出量	29.49	22.00	24.00	24.00	9.1%
	期末在庫	0.64	0.31	0.60	0.60	93.5%
EU	期首在庫	8.02	7.31	6.33	6.33	▲13.4%
	生産量	61.95	59.31	60.00	60.00	1.2%
	輸入量	19.83	20.00	20.50	20.50	2.5%
	消費量	78.10	77.90	77.80	77.80	▲0.1%
	輸出量	4.39	2.40	3.00	3.00	25.0%
	期末在庫	7.31	6.33	6.03	6.03	▲4.7%
中国	期首在庫	206.04	211.29	198.18	197.18	▲6.7%
	生産量	288.84	294.92	295.00	295.00	0.0%
	輸入量	23.41	7.00	10.00	10.00	42.9%
	消費量	307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
	輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	211.29	197.18	182.16	181.16	▲8.1%
世界計	期首在庫	305.68	315.90	287.29	285.04	▲9.8%
	生産量	1230.52	1223.33	1264.98	1265.98	3.5%
	輸入量	198.19	183.04	187.48	187.48	2.4%
	消費量	1220.30	1254.18	1274.43	1275.79	1.7%
	輸出量	193.57	189.94	195.81	195.82	3.1%
	期末在庫	315.90	285.04	277.84	275.24	▲3.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 岡田 真希奈）

25/26年度の大豆生産量、輸出量は前月同、 期末在庫はわずかに上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年6月12日、25/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2682万トン（前年度比1.4%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の生産国であるブラジルとこれに次ぐ米国はいずれも

表 主要国の大豆需給見通し（2025年6月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(5月予測)	(6月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	7.19	9.32	9.53	2.3%
	生産量	113.27	118.84	118.12	▲0.6%
	輸入量	0.57	0.68	0.54	▲20.6%
	消費量	62.20	65.86	67.77	2.9%
	輸出量	46.13	50.35	49.40	▲1.9%
	期末在庫	9.32	9.53	8.03	▲15.7%
ブラジル	期首在庫	36.82	29.76	33.31	12.4%
	生産量	154.50	169.00	175.00	3.6%
	輸入量	0.87	0.28	0.15	▲46.4%
	消費量	54.41	57.00	58.00	1.8%
	輸出量	104.17	104.50	112.00	7.2%
	期末在庫	29.76	33.44	34.16	2.5%
アルゼンチン	期首在庫	17.00	24.05	24.75	2.9%
	生産量	48.21	49.00	48.50	▲1.0%
	輸入量	7.79	6.00	7.20	20.0%
	消費量	36.58	42.60	43.00	0.9%
	輸出量	5.11	4.20	4.50	7.1%
	期末在庫	24.05	24.75	25.45	2.8%
中国	期首在庫	32.34	43.31	43.96	3.9%
	生産量	20.84	20.65	21.00	1.7%
	輸入量	112.00	108.00	112.00	3.7%
	消費量	99.00	103.00	108.00	4.9%
	輸出量	0.07	0.08	0.10	25.0%
	期末在庫	43.31	44.98	43.86	▲0.2%
世界計	期首在庫	101.78	115.31	123.18	7.7%
	生産量	396.93	420.78	426.82	1.4%
	輸入量	178.12	178.28	186.82	4.8%
	消費量	331.03	353.20	366.46	3.8%
	輸出量	177.67	180.93	188.43	4.1%
	期末在庫	115.31	124.20	124.33	0.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億8686万トン（同4.8%増）と前月から4万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同3.7%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6659万トン（同3.8%増）と前月から13万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.9%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8843万トン（同4.1%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジルとこれに次ぐ米国はいずれも前月から据え置かれた。

期末在庫は、24/25年度の中国の消費量修正（前月から100万トン下方修正）などにより期首在庫が前月から102万トン上方修正されたことを反映し、1億2530万トン（同0.9%増）と前月から97万トン上方修正された。

今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離^{かいり}がある。国際相場にも影響する同国の輸入動向が注目されている。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年6月12日、25/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表し、期首在庫および期末在庫を除くすべての数値が前月から据え置かれた（表）。

米国内生産量は、158億2000万ブッシェル（4億184万トン^{（注1）}、前年度比6.4%増）と前年度からかなりの程度の増加が見込まれている。

米国内消費量は、127億8500万ブッシェル（3億2475万トン、同1.1%増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。

輸出量は、26億7500万ブッシェル（6795万トン、同0.9%増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。

期末在庫は、17億5000万ブッシェル（4445万トン、同28.2%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、11.3%（同2.4ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.20米ドル（612円。1キログラム当たり24円：1米ドル＝145.81円^{（注2）}、同3.4%安）と前年度からやや下落する見込みである。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年6月12日米国農務省公表）

区分	－単位－	2023/24 年度	24/25 年度 (推計値)	25/26年度			前年度比 (増減率)
				(5月予測)	(6月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.6	95.3	95.3	38.57（百万ヘクタール）	5.2%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	82.9	87.4	87.4	35.37（百万ヘクタール）	5.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	181.0	181.0	11.36（トン/ヘクタール）	0.9%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,415	1,365	34.67（百万トン）	▲22.6%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,867	15,820	15,820	401.84（百万トン）	6.4%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	25	25	25	0.64（百万トン）	0.0%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,655	17,260	17,210	437.15（百万トン）	3.3%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,673	12,640	12,785	12,785	324.75（百万トン）	1.1%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,805	5,750	5,900	5,900	149.87（百万トン）	2.6%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,868	6,890	6,885	6,885	174.89（百万トン）	▲0.1%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,478	5,500	5,500	5,500	139.71（百万トン）	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,292	2,650	2,675	2,675	67.95（百万トン）	0.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,290	15,460	15,460	392.70（百万トン）	1.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,365	1,800	1,750	44.45（百万トン）	28.2%
期末在庫率	(%)	11.8	8.9	11.6	11.3		2.4ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.35	4.20	4.20	24.1（円/kg）	▲3.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注1：年度は各年9月～翌8月。
注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。
注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

ブラジル

24/25年度トウモロコシおよび大豆の生産量、いずれも前年度比増

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は 主要穀物の生産状況等調査結果を公表した
6月12日、2024/25年度第9回目となる （表1、図1、2）。この調査は、春植えの夏期

表1 2024/25年度の主要穀物等の生産予測

項目	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2023/24 年度	24/25年度			23/24 年度	24/25年度			23/24 年度	24/25年度		
		(5月予測)	(6月予測)	前年度比 増減率		(5月予測)	(6月予測)	前年度比 増減率		(5月予測)	(6月予測)	前年度比 増減率
穀物合計	79,939.2	81,725.3	81,798.6	2.3%	3.7	4.1	4.1	10.4%	297,497.8	332,916.2	336,052.9	13.0%
トウモロコシ	21,051.2	21,387.0	21,435.7	1.8%	5.5	5.9	6.0	9.0%	115,500.0	126,878.6	128,252.7	11.0%
第1期作	3,970.1	3,750.1	3,728.4	▲6.1%	5.8	6.6	6.7	15.1%	22,962.2	24,688.4	24,821.8	8.1%
第2期作	16,437.8	16,987.5	17,047.9	3.7%	5.5	5.9	5.9	8.1%	90,057.8	99,803.4	101,009.5	12.2%
第3期作	643.3	649.4	659.4	2.5%	3.9	3.7	3.7	▲4.8%	2,480.3	2,387.1	2,421.4	▲2.4%
大豆	46,149.6	47,612.7	47,619.8	3.2%	3.2	3.5	3.6	11.3%	147,721.3	168,341.8	169,605.8	14.8%

資料：CONAB
注1：2025年6月12日公表データ。
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。
注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。
注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。
注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

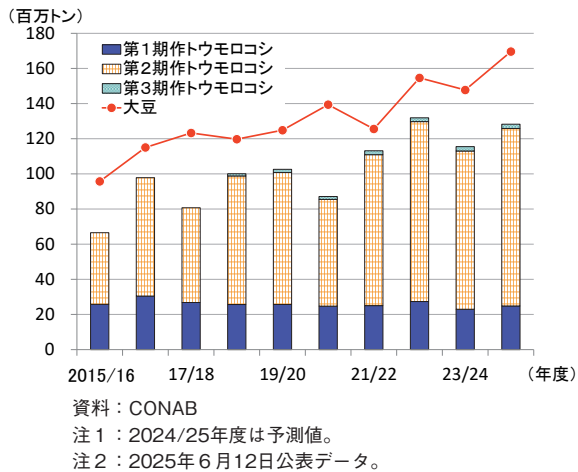
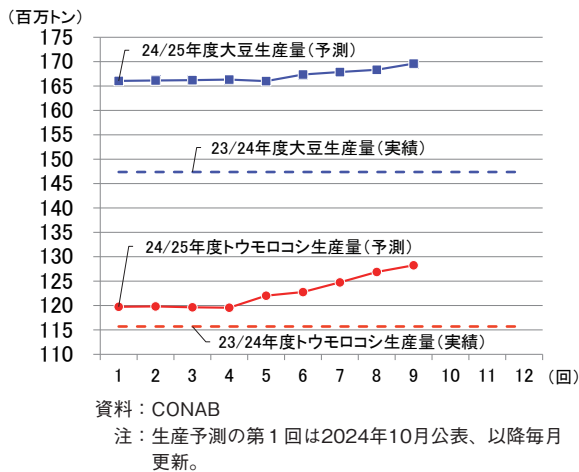


図2 2024/25年度の生産予測の推移



24/25年度トウモロコシ生産量、前年度比11.0%増の見込み

2024/25年度のトウモロコシ生産量は、前回（2025年5月）より137万4100トン上方修正の1億2825万2700トン（前年度比11.0%増）と、前年度をかなり大きく

上回ると見込まれている。これは、作付面積（同1.8%増）と単収（同9.0%増）がいずれも前年度を上回ると見込まれることによる。この生産量は、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度に次ぐ水準となる。

内訳を見ると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は前回より13万3400トン上方修正の2482万1800トン（同8.1%増）と、前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。第1期作は、5月末時点で作付面積全体の89.6%で収穫を終えた。ブラジル国内のほとんどの州で降雨量が少なかったため、収穫作業は円滑に進んだが、リオグランデ・ド・スル州は雨の影響で作業が停滞していた。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は前回より120万6100トン上方修正の1億100万9500トン（同12.2%増）と、前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。第2期作は、マツグロッソ州、マツグロッソ・ド・スル州およびパラナ州で収穫が始まった。5月に降雨量が減少したことで、収穫作業が始まった地域にとっては作物の成熟が促されるなど、良い効果をもたらした。一方で、ミナス・ジェライス州、サンパウロ州およびゴイアス州の一部など播種作業が遅れた地域にとっては、成長を妨げる要因となった。

24/25年度のトウモロコシ需給を見ると、生産量が上方修正されたものの、エタノール用途としての国内需要が増加していることから、輸出量は前回と変わらず3400万トン（同11.7%減）と、前年度をかなり大きく下回ると見込まれている（表2）。

表2 ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

項目	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	24/25年度	増減率 (%)
期首在庫量	13,515.3	8,095.9	7,201.3	1,849.6	▲74.3
生産量	113,130.4	131,892.6	115,500.0	128,252.7	11.0
輸入量	2,615.1	1,313.2	1,644.7	1,700.0	3.4
供給量	129,260.8	141,301.7	124,346.0	131,802.3	6.0
消費量	74,534.6	79,466.0	83,995.5	89,390.0	6.4
輸出量	46,630.3	54,634.4	38,500.9	34,000.0	▲11.7
需要量計	121,164.9	134,100.4	122,496.4	123,390.0	0.7
期末在庫量	8,095.9	7,201.3	1,849.6	8,412.3	354.8

資料：CONAB

注：2025年6月12日公表データ。

24/25年度大豆生産量、前年度比14.8%増と過去最大の見込み

2024/25年度の大豆生産量は、前回より126万4000トン上方修正の1億6960万5800トン（前年度比14.8%増）と、前年度をかなり大きく上回り、CONABが統計を取り始めて以来最大となった22/23年度の実産量を超えると見込まれている。これは、作付面積（同3.2%増）と単収（同11.3%増）がいずれも前年度を上回ると見込まれることによる。

収穫の進捗率は、6月初旬時点で作付面積全体の99.8%に達した。今期の収穫は、多くの地域で天候に恵まれたため、当初の予想を上回る収量を記録した。一方で、マトグロッソ・ド・スル州およびリオグランデ・ド・スル州は天候不順により収量や品質に影響が出ている。

24/25年度の大豆需給を見ると、生産量の上方修正から輸出量も前回より27万9500トン上方修正の1億624万2400トン（同7.5%増）と見込まれている（表3）。

表3 ブラジルの大豆需給動向

(単位：千トン)

項目	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	24/25年度	増減率 (%)
期首在庫量	11,165.6	8,710.7	7,136.3	758.4	▲89.4
生産量	126,479.6	155,713.4	147,721.3	169,605.8	14.8
輸入量	419.2	181.0	821.0	500.0	▲39.1
種子/その他	2,862.5	3,344.0	3,402.5	3,639.7	7.0
輸出量	78,730.1	101,869.9	98,814.5	106,242.4	7.5
加工量	47,761.0	52,255.0	52,703.1	56,149.6	6.5
期末在庫量	8,710.7	7,136.3	758.4	4,832.5	537.2

資料：CONAB

注：2025年6月12日公表データ。

(調査情報部 原田 祥太)

トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年5月の国産トウモロコシ価格、国内の需要を反映してやや上昇

中国農業農村部は2025年6月24日、「農産物需給動向分析月報（2025年5月）」を公表した。この中で、25年5月の国産トウモロコシ価格は前月からやや上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、コーンスターチ製造企業などの需要は高い水準を維持しており、また、飼料需要も比較的安定しているとされている。一方、輸入は低水準で推移する中、トウモロコシ需給はひっ迫傾向にあり、港湾地域の倉庫や各企業の在庫は減少が続いていると報告されている。このため、短期的な国産トウモロコシ価格は、安定しながらやや強含みでの推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{こうほう}黄埔港到着は、25年5月が1キログラム当たり2.08元（43円：1元＝20.49円^{かんとん}（注）、

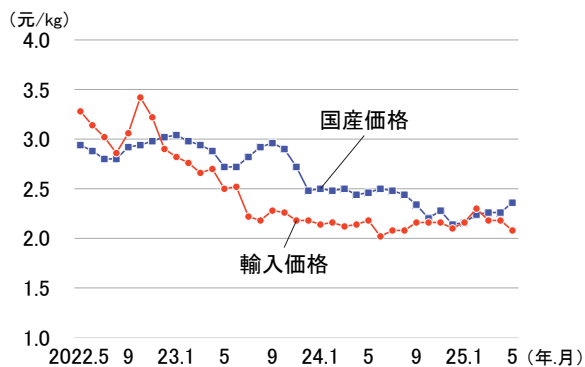
前月比5.6%安）とやや下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.36元（48円、同4.4%高）とやや上昇したことで、輸入と国産との価格差は広がった。

25年5月の国産大豆価格、需要は停滞も在庫の低下でわずかに上昇

2025年5月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、気温の上昇により大豆各製品の消費が季節的な閑散期に入ったため、製造企業は原料の調達に慎重を期し、必要に応じた在庫の補充を行ったと報告されている。一方で、主産地の在庫はほぼ枯渇と報告されており、限られた市場在庫を背景に、短期的な国産大豆価格は、安定しながらやや強含みでの推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省^{こくりゅうこう}の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年5月が1キログラム当たり3.98元

図1 トウモロコシ価格の推移

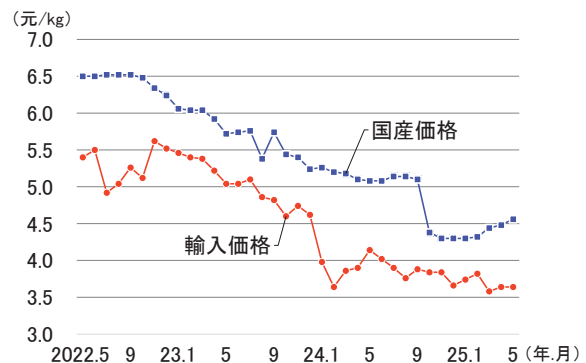


資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

(82円、前年同月比14.3%安)と前年同月をかなり大きく下回ったものの、前月に続き上昇した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる^{さんとう}山東省の国産大豆価格は、同4.56元(93円、同10.1%安)と前年同月をかなりの程度下回ったものの、前月に続き上昇した。同月の輸入大豆価格が同3.64元(75円、前月同)となったことで、輸入と国産の価格差は拡大した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて低い水準にある。25年(1～4月)の輸入量は2319万トン(前年同期比14.6%減)とかなり大きく減少した。また、輸入額

は同28.2%減の26億9900万米ドル(3935億円：1米ドル＝145.81円^(注))と報告されている。主な輸入先は米国(総輸入量の55.8%)、ブラジル(同39.4%)、カナダ(同3.1%)となり、米国と中国の双方による追加関税応酬前の駆け込み輸入から、米国の割合は高くなっている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年6月末TTS相場。

(調査情報部 横田 徹)